

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：大山崎町）

タイトル	社会参加や生きがいづくり等の推進							
<b>現状と課題</b>								
<p>本町では、趣味関係のグループやスポーツ関係のグループ・クラブに参加している人が比較的多く、地域づくりの活動についてもある程度の参加意向を確認することができる。</p> <p>高齢者の社会参加や社会貢献活動は、高齢者自身の介護予防・自立支援につながるという視点に立ち、老人クラブや各種サークル活動、ボランティア活動の促進、生涯学習の推進、シルバー人材センター等を通じた就労支援などに取り組むことで、高齢者のライフスタイル及びニーズに対応できる社会参加や生きがいづくり等の場・機会づくりを進める。</p>								
<b>第7期における具体的な取組</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老人福祉センターの活性化</li> <li>・ 老人クラブ等の支援・育成</li> <li>・ 生活支援に関する自主グループ等の活性化</li> <li>・ 高齢者生きがい対策事業の推進</li> </ul>								
<b>目標（事業内容、指標等）</b>								
<p>週1回以上、何らかの会・グループに参加している高齢者の割合（認定を受けていない高齢者）</p> <table border="1" data-bbox="188 1384 933 1480"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 32 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンケート結果</td> <td>34.2%</td> <td>38.0%</td> </tr> </tbody> </table>				平成 28 年度	平成 32 年度	アンケート結果	34.2%	38.0%
	平成 28 年度	平成 32 年度						
アンケート結果	34.2%	38.0%						
<b>目標の評価方法</b>								
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 時点 <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 中間見直しあり</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 実績評価のみ</li> </ul> </li> <li>● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第8期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査結果による</li> </ul> </li> </ul>								

## 取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：大山崎町）

年度	平成30年度
----	--------

実施内容
<ul style="list-style-type: none"><li>・老人福祉センターの改修</li><li>・老人クラブ事業の支援</li><li>・生きがい対策事業の実施</li></ul>
自己評価結果
<p>×</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・老人福祉センターの利用者数は近年逡減している。入浴設備に不具合があり使用を停止しているが、ニーズと費用の面から、改修するまでに相当の期間を要した。</li><li>・老人福祉センターにおいて新たにカフェ事業を始めた。男性の参加を促す内容とし、当初は見込みどおりであったが、徐々に男女比が逆転した。</li><li>・老人クラブ事業、生きがい対策事業については、参加者が固定化しており、事業内容の広がりが見られない。</li></ul>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"><li>・老人クラブ会員が逡減しており、また、単位クラブが一つ解散するなど、クラブ運営の担い手が不足している。 →会計資料のひな型を用意するなど、定型作業を簡便にできるよう支援する。</li><li>・趣味嗜好、生活様式が多様化しているなか、包括的な団体への所属には否定的な傾向がある。 →“会員”にならなくても参加できる事業、メニューを充実させる。</li></ul>

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：大山崎町）

<b>タイトル</b>	介護保険制度の適正・円滑な運営
-------------	-----------------

### 現状と課題

要介護認定者は年々増加しており、要介護度が重度化するとともに、医療ニーズも高まっている。介護を必要とする高齢者が安心して介護サービスを利用できるよう、適正な事業運営の確保、介護給付の適正化を図るための取り組みを進める必要がある。

### 第7期における具体的な取組

- ・ 介護認定調査状況チェック
- ・ ケアプランチェック
- ・ 住宅改修等の点検
- ・ 医療情報との突合
- ・ 介護給付費通知

### 目標（事業内容、指標等）

	平成 30～32 年度
①介護認定調査状況チェック	点検チェック：全件、実態把握：随時
②ケアプランチェック	年 1 回以上
③住宅改修等の点検	住宅改修：年 1 件以上、 福祉用具貸与：申請者全件（軽度者にかかるもの）
④医療情報との突合	2 か月以上の実績に基づいて年 2 回以上実施
⑤介護給付費通知	1 か月以上の実績に基づいて年 1 回以上実施

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・ ①～⑤の実施状況の確認

取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：大山崎町）

年度	平成30年度
----	--------

実施内容

平成30年度実施状況（平成31年3月25日時点）

- |               |                     |
|---------------|---------------------|
| ①介護認定調査状況チェック | 点検：全件（464件）、実態把握：2件 |
| ②ケアプランチェック    | 59件                 |
| ③住宅改修等の点検     | 住宅改修：1件、福祉用具貸与：3件   |
| ④医療情報との突合     | 京都府国民健康保険団体連合会に委託   |
| ⑤介護給付費通知      | 未実施                 |

自己評価結果

△  
①～④については計画通りの実施状況だが、⑤については実施できていない。

課題と対応策

- ・③については作業療法士等の専門職の助力を得たい考えだが、庁内に資格を持つ職員はおらず、外部へ協力を求める必要がある。  
→京都府リハビリテーション支援センターへ依頼する。
- ・⑤については、実施の必要性について十分な協議ができておらず、通知対象者や内容、送付時期等の調整が必要。特に、通知後の対象者からの問い合わせについて、当係のみならず、担当ケアマネージャーなど関係機関への周知も必要。  
→他団体の実施状況を調査。係内で協議の後、居宅介護支援専門員連絡会にて周知。

## 取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

（市町村名：大山崎町）

タイトル	効果的な介護予防の推進
------	-------------

### 現状と課題

本町では、高齢者の介護予防等への関心は比較的高く、第7期介護保険事業計画策定時のアンケートによると、一般高齢者で56.7%、要支援認定者で64.0%が関心を持っている。なかでも「健康と運動」について知りたいと答えた者が、一般高齢者で23.6%、要支援高齢者で30.7%となっており、この「関心」を「実践」につなげていくための仕組みづくりが大きなポイントである。

また、“助け愛隊”サポーターをはじめ、自主活動グループやボランティアなどによる介護予防活動が町内でも徐々に広がりを見せており、今後も地域のつながりを大切にした自主的・継続的な介護予防を展開していく必要がある。

### 第7期における具体的な取組

介護予防の担い手である“助け愛隊”サポーターの養成講座を実施する。

介護予防の基礎知識、地域づくりの重要性、介護予防の必要性について地域へ発信するとともに、身近な地域での介護予防活動を展開にしていくために、“助け愛隊”サポーターの自主的な活動を支援する。

### 目標（事業内容、指標等）

“助け愛隊”サポーター養成講座の修了者数

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
見込み	100人	108人	115人	120人

### 目標の評価方法

- 時点
  - 中間見直しあり
  - 実績評価のみ
- 評価の方法
  - ・“助け愛隊”サポーター養成講座の修了者数をカウント

## 取組と目標に対する自己評価シート（実績評価）

（市町村名：大山崎町）

年度	平成30年度
----	--------

実施内容
<ul style="list-style-type: none"><li>・“助け愛隊” サポーター養成講座の開催 平成30年12月20日（木）～平成31年2月27日（水）全5回</li></ul>
自己評価結果
<p>○</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・実績：29年度までの修了者119人　30年度修了者26人　計145人</li><li>・平成25年度の開催から第6回目を迎える本養成講座だが、毎年新規受講者とともに過去の受講者が聴講しており、非常に賑わいのある講座となっている。</li><li>・本年度は過去に開催した養成講座の内容を掘り下げ、助け愛隊サポーターのフォローアップとしての性格も持ち合わせた講座としている。</li></ul>
課題と対応策
<ul style="list-style-type: none"><li>・養成講座の修了者は毎年10名以上出ているが、地域における自主活動グループの立ち上げは年に数件である。</li><li>・サポーターとしての活動機会が少なく、やる気がくすぶっている。</li><li>・町全体における認知度は低い</li></ul> <p>→人材バンクの創設 →広報の充実（活動内容を紹介する）</p>